

令和7年度 第1回近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策推進協議会 議事概要

日時 令和7年8月25日(月)

14:15～15:45

場所 大津合同庁舎 7-A会議室
オンライン(zoom)

1 議題

(1) 令和6年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について

(2) 令和7年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策について

2 その他 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する基本的な指針の次期指針の策定について

3 主な意見

議題(1) 令和6年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について

- ・事務局より資料に基づき報告と説明
- ・地場産業以外の産業の中小企業も対象とする事業を含めると議論の焦点がぼやける。地場産業に特化した事業を掲載するようにするのはどうか。
→実際に地場産業業界の助けになっているかの視点が、非常に重要かと考えるので、指標含めて次回の指針の改定時には、検討していきたい。

議題(2) 令和7年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策について

- ・事務局より資料に基づき報告と説明
- ・通番75の地場産業後継者インターンシップ事業に関して、新卒の学生を対象とし

ているのか。過去は終身雇用的なものが普通であったが、今は転職が当たり前で、1年2年でどんどん転職しながらキャリアを作る風潮になっている。転職には、UターンやIターンなどの可能性はあると思うから、そのような人にも視野に入れてやっていただきたい。

→今年度は新卒者を対象としているが、転職組については大きな課題であるため、意見を参考に周知の方法について検討したい。

・通番75の地場産業後継者インターンシップ事業に関して、対象が1社だけなのか。地場産業はいくつかあるが、将来的に業界を広げるなど将来の意気込みを教えてほしい。

→今年度はあくまでもモデルケースを作るということで、1社確実なものを作る予算でやっている。今後の展開としては、今回のモデルで得られた成果を検討したのち、どう横展開を図るのか検討したい。

その他 近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する基本的な指針の次期指針の策定について

・施策でいろいろやっていただけてありがたい。ただ内部の景気は非常に悪い。世間では賃金引き上げ目指すとあるが、地場産業は零細が多い。その中で大手と同じ賃金だと、中小零細企業に振り向いてくれるとは思えない。それよりも金額を上げないと零細企業には集まらない。地場産業の技術継承などを守っていくのはありがたいが、零細が働くのに維持するのが厳しい状況になってきているので、その辺りの施策をもっと具体的にやってほしい。また、地場産業を守る上で、地場の商品を県としても市としても率先して使っていただきたい。

・滋賀県全体の物産展をする必要があると思う。近江米は近畿では知名度が高いが、関東までもっていく量がないので知名度が低い。近江牛が引っ張って、滋賀県すべての工業製品、農産物を含めた物産展をやるべきと考える。横のブースで観光のブースを作り、ぜひ大津へ、近江八幡へ来てくださいというような仕組みは仕掛けないとだめだ。

・伝統工芸が時代に合っていないのが一番の問題と感じる。今は必要とされるものを作っていないとだめだと思っていて、過度な加飾であったり、やたら値段が高いものは少量売れるが、大量に売れないなら価格を抑えるための努力が必要だと思う。今本当に市場で何が押しやられているのかを真剣調査しながら新しい商品を作っ

て、産地を守っていかないとだめだと思う。

- ニーズの掘り起こしや時代に合わせた即応力は、どの産業に関しても言えることだし、ものづくりの基本ではあるかと思う。良いものを求められるものをよりよく作っていくのは継続的に考えないとだめで、我々が気づいていないことをもう一回見つけなおすことは永続的な課題と考える。

どの産業を見ても同じであるが、大げさだが日本全体が崖っぷちに来ているので、オール滋賀という考え方で連携、つながり、外の需要というか市場とのつながりをどう作っていくか。それぞれバラバラでは難しいところがあるので、滋賀県がハブになってもらいながら、継続的にやっていかざるを得ないと考える。